

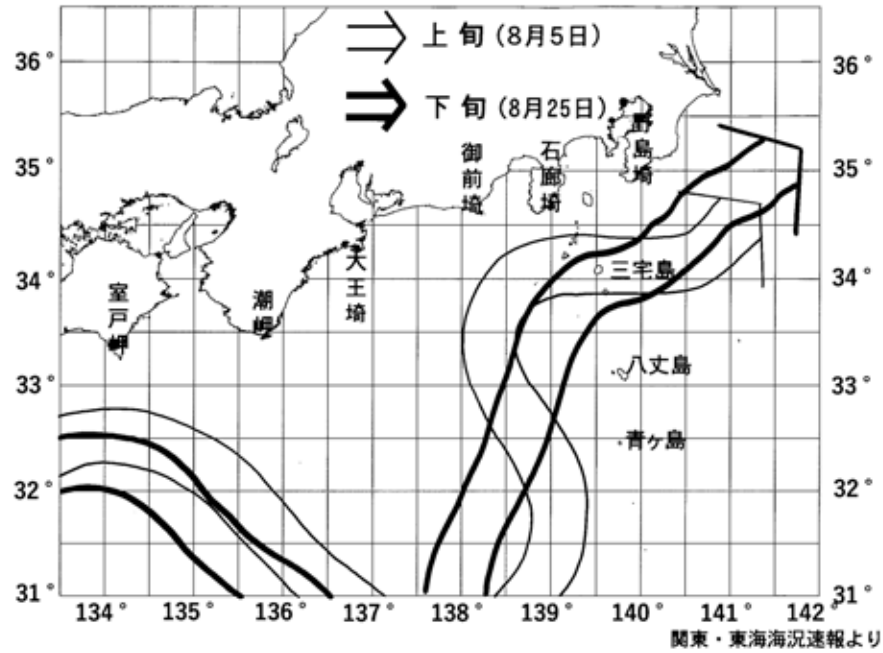
# 漁海況月報

令和3年8月1日

No. 8 ~8月31日

静岡県水産・海洋技術研究所  
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



8月定地水温の旬平均値( ) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	26.3	25.8	25.0	28.0	28.4	28.0
	1.4	2.5	1.3	2.6	3.2	2.7
中旬	25.1	24.2	24.1	26.6	27.0	26.0
	-0.1	0.1	-0.2	0.9	1.3	0.3
下旬	25.7	25.1	24.9	27.2	26.7	27.2
	0.6	0.8	0.4	1.2	0.5	1.5
月	25.7	25.1	24.6	27.2	27.4	27.0
	0.6	1.2	0.5	1.6	1.7	1.5

\*地頭方の水温観測は終了しました。

## [黒潮流路]

潮岬を大きく離岸した後に大王埼-遠州灘沖付近から石廊崎沖まで上中旬はS字状に、下旬は直線状に北上する流路となった。

上旬は潮岬-遠州灘を大きく離岸し、遠州灘沖30.5°N付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

中旬は潮岬-遠州灘を大きく離岸し、遠州灘沖30.5°N付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、遠州灘、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

下旬は潮岬-大王埼を大きく離岸し、大王埼沖30°N付近から石廊崎沖まで直線状に北上する流路となり、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

## [県下沿岸域]

上旬は伊東、下田で「やや高め」、稲取、雲見、沼津、焼津で「極めて高め」であった。中旬は伊東、稲取、下田、焼津で「平年並」、雲見、沼津で「やや高め」であった。下旬は下田で「平年並」、伊東、稲取、雲見、沼津で「やや高め」、焼津で「高め」であった。

## [竿釣カツオ]

8月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは81.6トンで前年同月(110.4トン)の96%であった。魚価は265円/kgで前年同月(532円/kg)を下回った。

漁場は33-34°N、139-140°Eの伊豆諸島周辺海域などであり、御前崎港で測定した魚体サイズは、中(尾叉長56cm)を主体に、大(尾叉長58cm)などであった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R3年8月上旬	36.2	6	6.0	222
中旬	14.1	5	2.8	552
下旬	31.3	9	3.5	185
R3年8月計	81.6	20	4.1	265
R2年8月計	110.4	59	1.9	532
R1年8月計	114.7	19	6.0	237

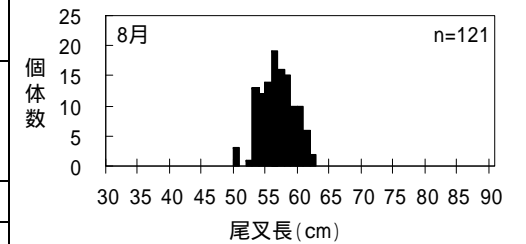


図 御前崎港で測定したカツオの尾叉長組成

## [定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚げ量は199.9トンで前年の同漁場の水揚げ量(194.7トン)の1.0倍であった。また、1か統あたりの水揚げ量は、28.6トンで前年(27.8トン)の1.0倍、平年(45.6トン)の63%であった。水揚げ量の多い漁場は、伊豆山漁場(47.4トン、さば類、マアジ、ヤマトカマス)、次いで赤沢漁場(37.8トン、さば類、ヤマトカマス、ニザダイ)であった。

多獲された魚種の水揚げ量は次頁(表)のとおりで、さば類は127.7トンで、前年比1.5倍、平年比99%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは48.9トンで、前年比284.4倍、平年比8.2倍、ゴマサバは78.8トンで、前年比91%、平年比63%であった。ヤマトカマスは16.6トンで、前年比3.5倍、平年比1.1倍であった。マルソウダは14.2トンで、前年比68%、平年比69%であった。クサヤモロは8.7トン、前年比1.0倍、平年比5.3倍であった。マアジは6.4トンで、前年比1.0倍、平年比34%であった。その他の魚種については、8月11日の赤沢漁場でニザダイが4.0トン水揚げされ、特異的な入網であった。

多獲された魚種の主な漁場は、次頁(表)のとおりで、各漁場の水揚げ量の割合は、さば類では伊豆山漁場が33%(42.8トン)、川奈漁場が19%(23.7トン)、ヤマトカマスでは北川漁場が45%(7.6

トン) 赤沢漁場が33%(5.4トン) マルソウダでは北川漁場が52%(7.4トン) クサヤモロでは赤沢漁場が36%(3.1トン) 川奈漁場が30%(2.6トン) マアジでは伊豆山漁場が32%(2.1トン) 古網漁場が32%(2.0トン) 谷津漁場が24%(1.6トン)を占めた。

\* 平年：昭和57年～令和2年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	127.7	1.47	0.99	伊豆山、川奈
ヤマトカマス	16.6	3.51	1.12	北川、赤沢
マルソウダ	14.2	0.68	0.69	北川
クサヤモロ	8.7	1.04	5.28	赤沢、川奈
マアジ	6.4	1.01	0.34	伊豆山、古網、谷津

[ サバ 棒 受 網 ]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じて棒受網主体で操業し、漁場はひょうたん瀬に形成された。水揚量はゴマサバ92トン(前年同月比43%)であり、1隻あたり水揚量は11.5トン(前年同月比1.3倍)であった。マサバの水揚は無かった(前年同月水揚無し)。

1kgあたり平均単価は121円で前月(123円)をやや上回り、前年同月(122円)とほぼ等しかった。

水揚されたゴマサバの体長は30cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(棒受網)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R3年8月上旬	-	91	4	6	-	15.2	-	121	ひょうたん瀬
中旬	-	1	1	2	-	0.3	-	133	ひょうたん瀬
下旬	-	-	0	0	-	-	-	-	ひょうたん瀬
R3年8月計	-	92	5	8	-	11.5	-	121	ひょうたん瀬
R2年8月計	-	215	9	24	-	8.9	-	122	ひょうたん瀬 三本
R1年8月計	-	0	4	10	-	0.0	-	88	-

\*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[ シラス船曳網 ]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が104kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が148kgであった。平均水揚量は128kgと前年同月(499kg)の25.6%、平年同月(過去5か年平均:277kg)の46.1%であった。また、総水揚量は124.4トンで前年同月(1,169.6トン)の10.6%、平年同期(430.1トン)の28.7%と、前年、平年を下回った。平均単価は1,102円/kgと、前年同月(565円/kg)の2.0倍、平年同月(974円/kg)の1.2倍と、前年、平年を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(ト)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	9.0	6	64	140	1,056
舞 阪	36.5	7	208	175	1,033
福 田	23.0	8	188	122	982
御前崎	8.6	6	60	144	1,149
吉 田	18.0	7	163	111	1,101
静 岡	29.3	15	291	101	1,284
R3年8月計	124.4	49	974	128	1,102
R2年8月計	1,169.6	102	2,345	499	565
R1年8月計	286.8	51	1,039	276	808

\*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

\*平年：過去5か年(平成28～令和2年)平均値

[ まき網(いわし類) ]

マイワシの水揚量は、沼津港では0.001トン(前年同月水揚げなし、平年同月比0.002%)、伊東港、静浦港、小川港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港ともに水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統では、マイワシ、カタクチイワシともに水揚げがなかった。

\*平年：過去5か年(平成28～令和2年)平均値

[ 調査船駿河丸の動向 ]

8月 3日 ~ 8月 5日 地先定線観測調査 (3日間)

8月 5日 ~ 8月 5日 ドックへ回航 (1日間)

8月 30日 ~ 8月 30日 ドックから回航 (1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

